

水稻の高温登熟障害対策について

○水稻の高温登熟障害について

- ・ 出穂期以降、登熟期に高温が続くと、白未熟粒などの登熟障害が発生しやすくなります。
- ・ 高温登熟障害等の影響により本県の令和6年産一等米比率は大きく低下。
(一等米比率：6年度26.5%、5年度87.5%)

出穂期以降の気温に十分注意し、高温登熟障害を受けないよう、適期に適切な栽培管理を行いましょう。

○移植時期について

早めに田植を行うと、夏季の高温下での登熟となり、登熟障害が発生しやすくなります。遅植えによりこれを回避できる可能性があります（ヒノヒカリの場合：6月20日頃）。ただし、極端な遅植えは収量に影響が出るので注意が必要です。

○水管理について

・ 出穂～穂揃期 → 深水管理

出穂・開花の時期は最も水を必要とします。この時期に水が不足すると、穂の生育や稔実が悪くなります。**出穂前後約5日間は、水田の水を絶やさないようにします。**

・ 登熟期以降 → 間断灌水

間断灌水により土壌を湿潤な状態に保つ（足跡に少し水が溜まる程度）ことで、湛水状態と比較して株元の温度や地温が下がる効果が見込まれます。**収穫作業に支障のない範囲で、落水はできるだけ遅く（出穂後35日以降）します。**

水管理のイメージ

